メーデーは人間らしい生活を要求する労働者の斗いである

メーデー豆知識

日本のメーデーのはしり

日本の第一回メーデーは大正九年の五月二日に行われたことはだいぶ知られている。しかし日本の労働者はこれより以前にもメーデーを祝っていた。明治三十八年に平民社主催の茶話会でメーデーを祝ったのがそのはしりである。

赤旗の歴史

一八四八年二月のフランス革命のとき、パリの労働者は赤旗をかかげ赤マフラに赤いリボンをつけた帽子をかぶって政府に敵いされたころは、まだ三色旗が民衆の旗としてかかげられ一八三一年にリヨンの労働者が蜂起したときには黒旗がかかげられていたが、こうした変せんをへて赤旗は民衆の旗となったのである。

でもバスティユーの牢獄の破かい判し三色旗を赤旗にかえるよう要求した。ブルジョア支配者のごまかしの「自由、平等、博愛」に対して民衆は血、情熱、自由、解放の旗じるしとして赤旗をかかげたもの。フランス革命

闘いの中に迎える我等の祭典

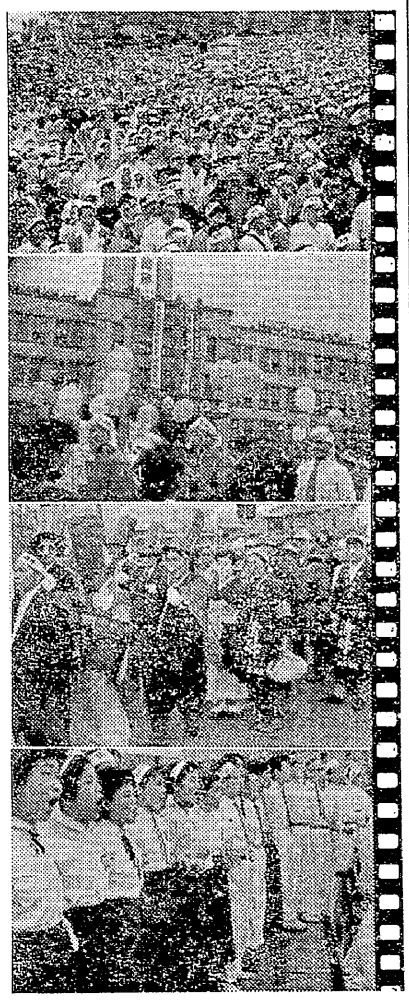
さあメーデーへ揃つて参加しよう

第二十九回メーデーが早くもやつてきた。折しも衆議院も解散した今年のメーデーは春闘と勤評と総選挙の中に行われる闘うメーデーである。まさに鉢巻メーデーでもある。大牟田、荒尾両地区では全労働者が参加して大会を開催するが、メーデーには全員参加してこの祭典を闘いの巨歩にしなければならない。

大牟田、荒尾とも今年のメーデーは闘いの中に迎えるメーデーとして開催することを決定している。とくに大牟田では炭都祭と一緒になるため、炭都祭かメーデーか分らないような仮装はやめることに申合せているほどである。大牟田地区メーデーは午前九時半開始、笹林公園が人員を収容しきれないため、今年は会場を延命公園体育館前にきめた。大会所要時間約一時間、このあとデモに移り延命公園―警察署前―市役所前―五月橋―東新町のコースで行進する

一方、荒尾地区メーデーは会場を第二小学校グラウンドにあて午前十時開始する。大会終了後はデモ隊を二隊に分け一隊は二小―大正区―警察署前―県境大通―名園座前のコースと、他の一隊は二小―大正区―大島上―大島橋―荒尾駅前のコースで行進することになつている。

なおこの両地区以外でも今年は瀬高、羽犬塚、柳川、玉名地区でメーデーを行うことになつている。新緑の五月、働く仲間たちとともに胸を張つて参加しよう。



写真は昨年のメーデースナップ
大会終了後思い思いの仮装で街をデモつた。

労働者階級 解放のあゆみ

参加者がつづるメーデーの歴史

日本最初のメーデーが行われたのは、いまから三十八年前の大正九年であつた。あるときは文字通り生命をかけて闘つてきたメーデーの歴史は、そのまま労働者階級解放闘争の歴史であつた。「最低賃金制」「八時間労働制」「平和を守れ」の要求は、世界の労働者と同じく日本の労働者にとつても最初のメーデーからの要求であつた。以下当時の参加者がつづる日本メーデーの歴史――。

警官の包囲の中で

一九二〇年 第一回メーデー

市川 誠雄

日本最初のメーデーは大正九年の五月二日に上野公園でおこなわれた。ちようど日曜日だつた。参加者は十五団体五千人といわれたが、実際には六千人位いただろう。

友愛会、信友会などという印刷工の組合や教員の啓明会、交通労働者、自由労組そのほか社会主義団体、学生、婦人もたくさんいたこの頃の集会には警官がつきものだが、この日も上野の山のまわりは警官で真黒にうまつていた。こんなかで市電従業員のスト援助

日本ファシズムへの抵抗

一九三五年戦前 最後のメーデー

山村 信吾

八時間労働制、シベリヤからの即時撤兵、言論の絶対自由の要求をどきめた。そのあと広小路からスクラムを組んでデモをやつたがデモはもちろん禁止であつたから各所で検束がはじまり、わたしは黒門町でやられてしまつた。（筆者は市川正一氏令弟）

中心とする右派は芝公園に、評議会を中心とする左派は芝浦に集つた。私は芝浦のメーデーに参加したが、五千人ぐらいは集つていただろう。

デモ行進は警官の垣にとりまかれていた。列の前後に四人づつ左右にも二メートルおきに一人づつついていた。沿道にもおびただしいアゴヒモの警備。デモ隊はその警官の垣にむかつて赤旗やインターをたたきつけていた。威勢よくもみだすとアゴヒモは列にわりこんできてわれわれを引つこ抜いた抜かれたが最後ブタ箱ゆきだ。だ

ほとばしる労働者の確信

一九四六年 復活メーデー

重盛 壽治

戦時下の〝冬の時代〟をきりぬけてきた労働者は、一九四六年五十万人の大メーデーを感慨して迎えた。国民は食糧に飢え〝米よこせ〟の激しい闘いに立ちあがり、労働者は「民主日本を建設するのはおれたちの団結の力だ」という確信にみちあふれていた。「食糧の人民管理、働けるだけくわせろ」「民主日本と世界の平和」が労働者の中心的要求だつた。労働運動は猛烈な勢いで高揚していつた。「力をあわせればやれるんだ」――そういう巨大な力を私は感じた。（筆者は第十七回メーデー総司会者、当時都労連委員長、現参議院議員）

荒れ狂う警官隊

一九五二年 血のメーデー

梅崎 春生

私はあの一瞬の光景を、忘れることは出来ない。ほとんど無抵抗なデモ隊（一般市民も相当にその中に混つていた）にむかつて、完全に武装した警官たちは、目をおおわせるようなど猛な殴撃を敢えてした。またたく間に警棒に頭を強打され血まみれになつた男女が、あちこちにごろごろころがる頭を押えてころがつた者の腰骨を警棒が更に殴りつける。そしてそれを踏み越えて、逃げまどうデモ隊を追つかける。私は鉄柵の外側だつたから、一応の安全地帯にあつた。私はつぶさにそのやり方を見た。

私の見た限りでは、最初に暴力をふるつて挑発したのは、明らかに警官側であり、「組織された暴徒」とは、デモ隊のことではなく完全武装のこれら警官隊であつた（筆者は作家・青銅社刊「目撃者の証言」〃私は見た〃より）

からみんな懸命に腕をくんだものだ。翌十一年は二・二六事件があり、それをきつかけにファシヨ勢力が台頭、第十六回を最後にメーデーはついに禁止され日本は太平洋戦争の泥沼にはまりこんでいつたのだ。（筆者は鉄鋼労連書記）

水爆と疑獄への怒り

一九五四年ビキニ・メーデー

高野 実

一九五四年は〝失対予算を削るな〟の大のぼりをかかげた全日自労の闘争で幕をあけた。賃上げを要求する炭労は時限スト、部分ストにひきつづけて二月、運搬ストに入つた。教師は京都の旭ガ丘中学の不当転勤反対を中心に教育二法案反対の闘いに立ち上つた。

吉田内閣は造船疑獄の発覚でどたんばに追いつめられ、最後のあがきをつづけてきた。この時起つた福竜丸のビキニ被災事件は水爆への国民の怒りを爆発させた。魚屋さんもすし屋さんも立ち上つた総評は「原水爆の国際管理」を全世界に訴えた。こうした動きにもかかわらずメーデー実行委は「原水爆禁止」を中心スローガンに入れなかつた。

ところが第二十五回メーデーの会場は水爆への怒りをこめたキノコ雲とマグロのはりぼてと吉田疑獄内閣糾弾のプラカードでうずまつた。中央メーデーは六十万、戦後最大のメーデーだつた。この騒然たる中で吉田内閣は異例の指揮権発動で官房長官佐藤栄作らの検挙を阻止しMSA予算を多数でおしきつた。

メーデーに結集された日本労働者の力はやがて近江絹糸、日鋼室蘭の歴史的大闘争を通じて労働運動の大きな前進をもたらすことになつたのである。（筆者は当時総評事務局長、現全金属副委員長）

ワァ！すごい…

メーデーびつくり箱

◇メーデー参加者は回を重ねるごとにふえ、昨年は全国で三百八十万人だつた。今年はもつとふえるだろうが、三百八十万というこの労働者やその家族の力がどんなに偉大で素晴しいものか、びつくり箱のふたをあけてみよう。

◇三百八十万人といえば福岡県の総人口と同じ。また大阪市と京都市に住む人全部にさらに五万人ばかりを上まわる数になる。

◇この参加者の身長を平均一・五メートルと仮定し、手をつなぐとどうなるだろう。距離にして五・七〇〇キロメートルとなり、一方の端が北海道の北の端稚内（ワツカナイ）に立つて国鉄幹線沿いに旭ぶと、のびるわのびるわ九州の鹿児島で折れてふたたび北上し、函館にまでのびる。ことしの参加者が四百万人をこえると振出しの端稚内につくことになるわけだ。つまり日本列島を南北に二列に縦断する勘定。

◇それでは三百八十万の参加者が四列に縦隊（前後の距離五十センチ）を組んだとするとその長さは東京から米原と京都の中間〃篠原〃の駅までの距離に相当する。